

まちのうごき

(6月1日現在)	(5月中)	
世帯数 17,182世帯	生まれた人 43人	
人口 53,156人	亡くなった人 26人	
男 26,157人	転入した人 248人	
女 26,999人	転出した人 234人	

あなたの愛を



7月は「愛の血液助け合い運動」月間。向日市献血推進実行委員会では、昭和47年から、恒久的な計画献血の推進を図り、市民の皆さんの必要な輸血用血液の円滑な需給を確保するため、積極的に献血運動に取り組んでいます。ケガや病気で苦しんでいる人たちを救うのは、あなたの愛の献血がもたらします。

献血者が減少しています

昭和63年度の献血運動実施状況では、参加者1566人、採血者数1411人となっていました。これは、過去10年間で最も多かった昭和59年度(参加者2379人、採血者2114人)の7割にも満たないものです。また、初めて献血に参加された方についても、昭和59年度が876人と最も多く、61年度521人、62年度404人、63年度375人と減っている傾向となっています。

3種類の献血方法

献血には、200ミリリットルと400ミリリットルの2種類の献血と成分献血の3つの方法があります。200ミリリットル献血は3つの献血の中で、最も広く一般的に行われているもので、移動採血車などで気軽に献血できます。400ミリリットル献血は昭和61年から、輸血副作用などを大幅に減少させることを目的に導入されたものです。

献血に

愛の血液助け合い運動展開中

献血は安全・健康チェックにも

人間の体内に流れている血液の量は、個人差はありますが男性の場合体重の約8%、女性の場合約7%です。一般に、出血が全血液量の15%以内であれば、医学的には何ら問題はありませんが、まれに献血後、貧血などの不快感をうったえる人がいますが、これは、むしろ心理的な影響によるものがほとんどです。血液の量自体は献血後数時間で回復します。赤血球が回復するのは早い人で1週間程度かかりますが、健康や日常生活に差しさわりのありません。

人のために役立つ献血

これからもずっと続けたい

永井直美さん
昭和60年から始めて、今日が13回目の献血になりました。職場が寺戸公民館に近く、献血の機会が多いため、ここでも献血が行われる時には、必ず参加するようにしています。今日は成分献血が行われていると聞いて、その見学もかねて献血にきました。私の血液が病気のケガと闘っている人に役立つと思うと、うれしく思います。

募集しています

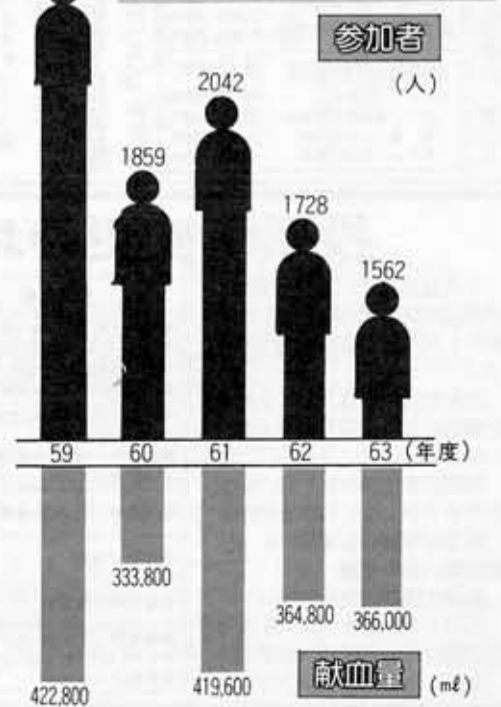
乙訓献血推進協議会では、献血に関する標語を募集しています。
▼テーマ 献血及び血液事業に関するもの
▼募集期間 7月1日(土)～31日(月)
▼募集内容 高校生の部・一般の部
▼応募資格 向日市、長岡京市、大山崎町に住所のある方、又は通勤・通学している方

献血に関する標語

審査 9月
発表 広報向日市
表彰 入選者、佳作者を表彰します。
▼その他 (1)応募作品は返却しません。(2)作品は今後のPRに使用します。(3)作品は未発表のものに限り、(4)応募者全員に記念品を贈呈します。(5)著作権は乙訓献血推進協議会に属します。
▼お問い合わせ 健康管理課 内線339



献血参加者・献血量の推移



この検査結果によって、自分の健康チェックに役立てることが出来ます。向日市献血実行委員会では、毎月20日の市民献血推進デーの徹底を図り、平成元年度の献血目標本数2200本に向けて、事業を展開します。市民の皆さんのご協力をお願いします。
7月の献血デー 7月20日(木) 午前10時～11時45分、午後1時30分～3時30分、向日市役所